

西本寺

西本寺は、何世紀も大森町で最も財産があり、影響力をもっていた熊谷家と関係の深いお寺です。熊谷家は鉱山で財を成しましたが、石見銀山地方の中央行政を行う奉行所で財政、契約、管理業務などの経営にも携わりました。熊谷家はその権勢を 1600 年代始めに拡大していき、数十年後に浄土真宗のお寺を近隣の出雲地方から現在の場所へ移築させて寺を西本坊、のちに西本寺へと寺号を改めました。1867 年に再建された本堂は、熊谷家による西本寺への最後の貢献となったもので、現在はその木造の正門がよく知られています。その建設された時代は 1600 年代の始めまで遡り、この地方で最も古い現存する建物の一つということになります。この門はもともと、江戸時代（1603～1867 年）を通じて石見銀山でもっとも影響力のある宗教的施設であったお寺、龍昌寺の敷地にあったものです。龍昌寺の繁栄は 1923 年の銀山閉山のあと衰えていき、この地方も人口が減少しました。龍昌寺は 1961 年に廃寺となり、その歴史的価値の高い山門が西本寺に移され、かつての銀山の繁栄を偲ぶものとしてそこに立っています。